

## 講 義 要 項

授業科目		薬理学		担当者	木下 力																										
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後																										
	2 単位	45 時間	講義・演習・DVD・その他		1 年次・後期																										
授 業 目 標	<p>1. 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序、人体への影響および管理について理解する。また、各疾患に用いられる看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識を習得する。</p> <p>総論で基礎的知識を十分理解した後、各論で実践に役立つ知識を身につけてもらうよう、授業を進めていきたい。</p>																														
授 業 内 容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 薬理学とはなにか</td> <td style="width: 50%; border: none;">14. 抗アレルギー薬・抗炎症薬</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 薬による病気の治療</td> <td style="border: none;">15. 末梢での神経活動に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 薬が作用するしくみ(薬力学)</td> <td style="border: none;">16. 中枢神経系に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 薬の体内の挙動</td> <td style="border: none;">17. 心臓・血管系に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 薬物相互作用</td> <td style="border: none;">18. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. 薬効の個人差に影響する因子</td> <td style="border: none;">19. 物質代謝に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 薬物使用の有益性と危険性</td> <td style="border: none;">20. 皮膚科用薬・眼科用薬</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. 薬と法律</td> <td style="border: none;">21. 救急の際に使用される薬物</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9. 看護業務に必要な知識</td> <td style="border: none;">22. 漢方薬</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">10. 添付文書</td> <td style="border: none;">23. 消毒薬</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">11. 抗感染症薬</td> <td style="border: none;">24. 輸液製剤・輸血剤</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">12. 抗がん薬</td> <td style="border: none;">25. 単位修得試験(2回)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">13. 免疫治療薬</td> <td></td> </tr> </table>					1. 薬理学とはなにか	14. 抗アレルギー薬・抗炎症薬	2. 薬による病気の治療	15. 末梢での神経活動に作用する薬物	3. 薬が作用するしくみ(薬力学)	16. 中枢神経系に作用する薬物	4. 薬の体内の挙動	17. 心臓・血管系に作用する薬物	5. 薬物相互作用	18. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	6. 薬効の個人差に影響する因子	19. 物質代謝に作用する薬物	7. 薬物使用の有益性と危険性	20. 皮膚科用薬・眼科用薬	8. 薬と法律	21. 救急の際に使用される薬物	9. 看護業務に必要な知識	22. 漢方薬	10. 添付文書	23. 消毒薬	11. 抗感染症薬	24. 輸液製剤・輸血剤	12. 抗がん薬	25. 単位修得試験(2回)	13. 免疫治療薬	
1. 薬理学とはなにか	14. 抗アレルギー薬・抗炎症薬																														
2. 薬による病気の治療	15. 末梢での神経活動に作用する薬物																														
3. 薬が作用するしくみ(薬力学)	16. 中枢神経系に作用する薬物																														
4. 薬の体内の挙動	17. 心臓・血管系に作用する薬物																														
5. 薬物相互作用	18. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物																														
6. 薬効の個人差に影響する因子	19. 物質代謝に作用する薬物																														
7. 薬物使用の有益性と危険性	20. 皮膚科用薬・眼科用薬																														
8. 薬と法律	21. 救急の際に使用される薬物																														
9. 看護業務に必要な知識	22. 漢方薬																														
10. 添付文書	23. 消毒薬																														
11. 抗感染症薬	24. 輸液製剤・輸血剤																														
12. 抗がん薬	25. 単位修得試験(2回)																														
13. 免疫治療薬																															
参 考 文 献 等	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(3), 薬理学, 医学書院.																														
評 価	1. 単位修得試験: 30 時間目 1 回、45 時間目 1 回																														
備 考	実務経験: 薬剤師として、豊富な実務経験をもとに授業を行う。																														